

# いしかわ里山塾(能登班) まつりに関する地域アイデンティティ形成

団体名●2年生神崎ゼミ／代表者名●神崎淳子(経済学部講師)

## はじめに

里山塾 能登班は、能登半島で伝統的に行われているキリコ祭りに参加した。フィールドワークを通じて、地域の社会課題やまつりの意義を理解し、地域生活とまつりの関係と、地域に住むことの意味について検討した。祭りが地域に居場所をつくり、共同体の中の仲間意識やコミュニケーションの活性化、といった意味を持つという点で、地域住民のアイデンティティ醸成に意義があることを、研究成果として地域に還元した。

## 活動内容

9月に能登町柳田地区で開催される柳田大祭に準備から片付けまで一連の祭の流れを体験するとともに、祭り当日も担ぎ手としてボランティア参加し地域における祭の果たす役割やそこでの課題を理解した。また、2月10日に能登町立柳田小学校3年生にむけて、祭りを通じて理解した、地域の魅力と課題に関する授業を実施した詳細は以下である。

9月16日に開催された柳田大祭のため、9月15日から17日の3日間、能登町柳田地区日詰脇地区でキリコの組み立てから、祭り当日の祭礼・よばれ・キリコ運行、片付けまでを地域の方とともに行った。準備等を通じて作業の流れを記録するとともに、地域の方から祭の意義や課題についてインタビュー調査を行った。インタビュー調査から、祭りは地域にとって住民同士がコミュニケーションを取り、協力をして何かを成し遂げるという達成感を共有し一体となる役割があることがわかった。一方で、過疎や高齢化によりまつりをつづけるための人員が不足しており、学生ボランティアに頼る状況になっているなど存続の課題があることもわかった。

2月10日に能登町立柳田小学校の3年生向けに里山塾の授業を実施した。①小学生が「楽しく」授業に参加し、授業を通じて地域の魅力を再認識するとともに、②小学生自身がどのように課題に取り組むことができるかを考えるきっかけとなることを、目標に授業づくりをした。授業では楽しく理解してもら

うため、以下の3点について配慮した。①時間配分については、授業時間を3つのパートに分けて小学生が飽きずに取り組めるようにした。②参加型コンテンツとしてクイズやすごろくといったゲーム要素を取り入れ、小学生が話を聞くだけにならない工夫をした。③身近な課題と行動案の提示については、身近な大人に話を聞くことや、自分で調べるなどの課題解決のための具体的な行動を提示し、小学生が地域の課題を自分たちの問題として考えられる工夫をした。

## 成果、結果の考察

柳田小学校3年生向けの授業の授業では、小学生が飽きることなく、大学生が準備をしたコンテンツを楽しみ、自分たちの地域の祭りの意義を改めて考える機会となった点で意義がある授業となったと考える。

## 今後の課題、展望

授業実施時期が授業期間後であったため、大学生が授業の実施によって得た、気づきや自己の課題を、ゼミの授業内で整理することができなかった。



祭りの片づけの後、地域の方と撮影